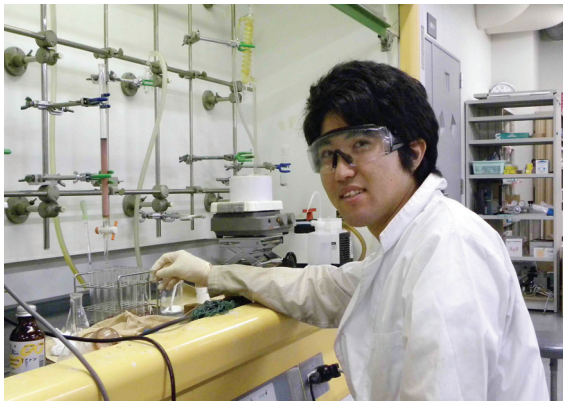
COLUMN

分子研に来てから

塚原　侑平
総合研究大学院大学物理科学研究科機能分子科学専攻

つかはら・ゆうへい
2008年4月総合研究大学院大学構造分子科学専攻5年一貫博士課程3年次編入学。生命・錯体分子科学研究領域 錯体物性部門 田中グループに所属。研究テーマは、二酸化炭素の電気化学的多電子還元反応の構築。専門分野は、錯体化学。



今回コラムを書かせて頂きます、生命・錯体分子科学研究領域 錯体物性部門 田中グループの塚原と申します。私は大阪市立大学大学院理学研究科で前期博士課程を修了し、分子研には2008年4月から5年生一貫3年次編入の総研大生としてお世話になっています。修士で銅触媒を用いた有機反応に関して研究をしており、現在ではルテニウム触媒を用いた電気化学反応について研究を行っております。拙い文章ではありますが 、本コラムでは分子研および岡崎の魅力を書きたいと思います。

まず、分子研はなんと言っても研究をする上で大変魅力的な場所です。その一つに研究設備が大変充実して点が挙げられ、私のような実験系の研究者にとって機器がないために研究の進行速度が遅くなることは全くありません。例えば、核磁気共鳴（NMR）装置は大変有用な分析機器ですが、修士時代では7、8研究室ほどの共有機器として利用していました。当時の大学ではNMR装置は一日中フル稼働しており、他人の測定を二、三時間待つのが当たり前で、時には次の日まで待つ場合がありました。しかしながら、現在の研究室では他研究室のNMR装置をお借りしている形なのですが、その研究室と私の研究室の2研究室のみで使用している為に、他の人の測定をほとんど待つ必要がありません。さらに、私の研究室では研究に必要な多くの汎用機器は研究室に必ず揃っており、度々協力研究者の方が機器を利用しに訪れます。また、分子研のどの研究室でも私の研究室と同様に、数多くの汎用機器があります。

また、分子研は各研究室の人員構成も独特で研究に集中できる環境です。分子研では一般的な大学と比べてスタッフや研究員が学生よりも多いため、博士後期課程の学生でも研究員以上の先輩方から研究の進め方や進路に関しての多彩なアドバイスを頂ける機会が非常に多いです。さらに、学生の数が全体的に少ない為に下級生の面倒を見る機会が非常に少なくて済み、自分の研究により集中することができます。例えば、現在私がお世話になっている研究室の構成は、教授1人、助教2人、研究員5人、学生は私ひとりだけです。一方で、分子研は研究に集中できる環境をつくるために、学生に対して生活費も補助しています。リサーチアシスタント（RA）として年間かなりの額の金額を支給しますし、年間約250万円の分子研独自の奨学金制度も創設しています。

さらに、分子研では研究面のみならず教育面にも魅力があります。学生として分子研に所属した場合、分子研の先生方が提供する各分野の基礎から最先端までの興味深い講義を受けることができます。その上、我々が在籍している総合研究大学院大学（総研大）が全専攻に対して提供する講義も受けることができます。 総研大は18カ所の大学共同利用機関を基盤にしており、質の高い研究者を育成することを目的に設立された大学院大学です。そして、総研大本部の全学事業推進室を中心に質の高い研究者を育成するために様々な魅力的な講義を提供しています。例えば、その中の一つに学生セミナーがあり、総研大生が主体となって計画したセミナーです。内容は各専攻に共通する教育研究に関する諸課題について、招待講演者や学生による意見発表や討議等です。そして、学生セミナーを通して、違う専攻や分野の相互理解を深めるとともに幅広い視野を身につけることができます。私自身この講義を通して異なる専攻の研究内容を聞くことができ、他専攻の研究の魅力を知っただけでなく、他専攻の友達をつくれることができ、非常に良い機会だったなと感じました。

研究や教育以外にも、分子研、生理学研究所（生理研）、基礎生物学研究所（基生研）からなる岡崎3機構では課外活動およびレクレーションにも力を入れています。岡崎3機構にはサッカー、バトミントン、テニス、およびバレーボール部がありますし、昨年度はソフトボール大会、バトミントン大会、ボーリング大会などが開催されました。このような機会を通して、息抜きをすることができますし、研究以外での人脈

を広げることもできます。私自身バトミントン部に所属しており、週一回2時間程度仲間と一緒にバトミントンを楽しんでいます。バトミントン部は分子研に来てから始めたような初心者の方でも気軽に楽しめますので、分子研に来られた際は是非バトミントン部をよろしくお願いします。

最後に分子研がある岡崎について少し紹介します。岡崎市は人口40万人弱の都市で、スーパーは所々に点在しており食料品を買うのには困りませんし、分子研から歩いて20分くらいの所には生活用品全般を取り扱っている大型のショッピングセンターもあります。一方で、名古屋や浜松などの大都市にも簡単に行くことができ、名古屋までは電車で30分もかかりませんし、浜松も電車で1時間弱で行けます。さらに岡崎からはレジャーに出かけるのもそれほど苦ではありません。例えば、三河湾には車で30分くらいで行けますし、キャンプ場は岡崎や豊田に沢山ありますし、スキーやスノーボードをするのにも岐阜や長野であれば日帰りで行くことができます。

以上、思いついたことを並べただけの文章になってしまいましたが、分子研や岡崎の魅力が少しでも読んで頂いた方に伝われば幸いです。

EVENT REPORT

学生報告 学位期授与式と学術交流会

物理科学研究科構造分子科学専攻平成21年度修了　浅野豪文

平成21年3月24日（火）湘南国際村葉山において平成20年度学位記授与式が開催されました。開式に先立ち、ドイツを中心に国際的に活躍されている藤井隆史さんと白水芳枝さんのピアノデュオによる演奏が行われ、素晴らしい音色に聴き入りました。式典では高畑尚之学長より修了生一人一人に学位記が読み上げられ、直接手渡されました。また、学長から鼓舞激励のお言葉を頂き、これからの未来に対する希望と覚悟で身の引き締まる思いでした。分子研での三年間の生活や研究活動などの様々な記憶が蘇り、非常に感慨深いものとなりました。最後に修了生から謝辞が述べられ、式典は閉式となりました。

学位記授与式の前日には「The Academic Exchange Sessions FY2008」の学術交流会が開催されました。普段は各基盤研究機関で研究を行っている総研大生が集い、研究成果を発表し、議論や交流を通して講演者・教員・修了生・在学生との間に学術ネットワークを築くことを目的として毎年、学位記授与式に合わせて行われています。今年度はポスターセッションに加え、「総研大修了後の研究歴・現在の研究について」と「みんなで語ろう ～研究者のキャリアパス・欧米およびアジアで働く～」をテーマに総研大修了生である先輩方による講演が行われました。日本と海外との研究環境の違いや視野を広げることの大切さなど大変貴重なお話を頂きました。また、交流会の前夜には理系から文系まで様々な他専攻の学生たちの有志がロビーに集まり、夜更けまで研究の話や自分たちの未来について語り合い、時間を共有できたことも良い思い出となりました。

学位記授与式並びに交流会を通じて異分野の方々と交流を持つことができ、大変有意義な経験になりました。

Toshifumi Asano
兵庫県立大学大学院工学研究科修士課程を修了後、平成18年に総合研究大学院大学物理科学研究科に編入学。現在、生命・錯体分子科学研究領域生体分子情報研究部門宇理須グループで、神経ネットワークの情報処理機構を解析するバイオセンサーの研究・開発に取り組んでいます。